

令和 7 年度

一般会計決算に係る主要な施策の成果等報告書

1. 西いぶり広域連合一般会計予算の執行と成果の概要

(1) 一般会計補正予算の状況 () は、当初予算額及び補正後予算額を示す。

(単位 千円)

区 分	補 正 額	補 正 の 主 な 内 容
当 初 予 算 R7. 2. 20 議決	(3, 563, 434)	
補正予算第1号 R7. 5. 30 議決	29, 705 (3, 593, 139)	子ども・子育て支援金制度対応経費
補正予算第2号 R8. 2. 20 議決	△595, 386 (2, 997, 753)	情報処理費（総合行政システム標準化移行対応、福祉システムの標準化システム向け過渡期連携対応、戸籍標準化・更新対応）の減額、ごみ処理費（施設運転保守管理等業務委託料）の増額 債務負担行為設定（共同電算用システム等保守業務委託）
補正予算第3号 R8. 3. 27 専決	—	繰越明許費設定（健康管理システム標準化移行、戸籍の附票へ旧氏及び旧氏の振り仮名を記載するための住民記録システム改修）
補正額合計	△565, 681	

(2) 歳入歳出予算の執行結果

予算現額との比較で、歳入では、192, 423 千円の減収となりました。これは、日本容器包装リサイクル協会からの拠出金収入等があったものの、歳出で不用額が生じたことにより関係市町負担金が減少したことなどによるものです。

歳出では、繰越明許費 72, 639 千円を除き、119, 888 千円の不用額が生じました。この主な要因は、予算額に比べ、共同電算に係るシステム改修委託料の減少などによる情報処理費の減、中間処理施設や最終処分場に関する入札執行残などによるごみ処理費の減などによるものです。この結果、実質収支額（決算剰余金）は、104 千円となりました。

(3) 債務負担行為

令和7年度に債務負担行為を設定した事項について、契約締結等による令和8年度以降の支出額は次のとおりです。

(単位 千円)

事 項	限度額	令和8年度以降 支出額	支出期間	備 考
共同電算用システム等保守業務委託	360, 623	343, 374	令和8年度	
旧中間処理施設解体工事	2, 791, 250	2, 784, 320	令和8年度から 2年度以内	
旧中間処理施設解体工事監理委託	27, 390	26, 730	令和8年度から 2年度以内	

(4) 繰越事業

① 翌年度への繰越事業

令和8年度に繰り越す事業は、次のとおりです。

(単位 千円)

区分	款	事業名	繰越額	左の財源内訳		
				既収入 特定財源	未収入 特定財源	一般財源
繰越明許費	情報処理費	健康管理システム標準化移行(更新)	66,066		分担金及び負担金 66,066	
		戸籍の附票へ旧氏及び旧氏の振り仮名を記載するための住民記録システム改修	6,573		分担金及び負担金 6,573	

(5) 主要施策の成果概要

① 西胆振地域廃棄物広域処理事業

ごみ処理施設の令和7年度のごみ搬入量は、前年度の可燃ごみ 35,255.64 トン、不燃・粗大ごみ 6,424.78 トン、合計 41,680.42 トンから、可燃ごみ 33,800.74 トン、不燃・粗大ごみ 5,285.32 トン、合計 39,086.06 トンとなり、約 2,600 トン、6.2%の減量となりました。これは、主として室蘭市のごみ搬入量が減少したためです。

② 最終処分場運営事業

最終処分場の令和7年度のごみ埋立量は、焼却灰等 5,763.33 トン、処理不適物等 450.19 トンの合計 6,213.52 トン、覆土は 248 トンでした。

③ リサイクルプラザ運営事業

令和7年度の資源ごみ処理量は、缶類 314.86 トン、びん類 640.38 トン、ペットボトル 422.56 トン、合計 1,377.80 トンで、アルミ缶、スチール缶の売払で 83,483 千円、また日本容器包装リサイクル協会からの有償入札拠出金及び再商品化合理化拠出金で 7,452 千円の収入がありました。ペットボトルの処理では、日本容器包装リサイクル協会への引き渡し(指定法人ルート)が 206.44 トン、民間事業者への売却(独自ルート)が 216.12 トンで、独自ルートでは公募型プロポーザル方式により、二酸化炭素削減効果が期待できる「水平リサイクル(ボトル to ボトル)」に対応する事業者を選定しました。

危険ごみの処理量は 99.30 トンで、スプレー缶類の処理に伴う破碎金属ごみの売払で 178 千円の収入がありました。

環境学習施設では、和こものづくりなど各種体験学習講座を行い、施設見学と合わせて 2,500 人の利用がありました。

④ 旧中間処理施設解体事業

旧中間処理施設解体事業については、旧中間処理施設の解体工事が開始され、建屋外壁塗装の一部除去、焼却場建屋の一部解体、炉室の除染作業等を実施しました。

⑤ 余熱利用施設等運営事業

げんき館ペトトルにおいては、午後 1 時から 8 時までの一般利用のほかに、午前中の専用利用では、指定管理者による健康増進・ダイエットを目的としたアクアエクササイズ教室や水泳教室の開催など利用拡大に努めました。利用者数は、温水プール 15,394 人、体育館 10,973 人、多目的室 323 人の合計 26,690 人となり、4,960 千円の利用料金収入がありました。

⑥ 共同電算システム運用事業

共同電算システムの運用では、「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律（令和三年九月一日施行）」にて定められた標準仕様書に適合する標準準拠版総合行政システムへの移行対応や戸籍法の改正に伴う戸籍への氏名の振り仮名追加及び記載予定の振り仮名の通知に対応するための戸籍・附票管理システムの改修等の各種制度改正等への対応に加え、『「強い経済」を実現する総合経済対策』を踏まえた「物価高対応子育て応援手当」にかかる臨時給付金システムの改修等に対応しました。

2 主要な施策の成果

(1) 一般会計

款	目	事業名	決算額	財源	
				特定	地方債
情報処理費	情報処理費	西いぶりデータセンター運営管理経費	23,748		
		共同電算システム運用経費	1,353,735		
		西いぶりデータセンター整備事業費	49,397		
ごみ処理費	中間処理施設運営費	中間処理施設管理運営経費	871,452		
	最終処分場運営費	最終処分場管理運営経費	48,356		
	リサイクルプラザ運営費	リサイクルプラザ管理運営経費	86,106		
	中間処理施設建設費	旧中間処理施設解体工事	361,680	113,116	
		旧中間処理施設解体工事監理委託	9,900	566	
土木費	余熱利用施設等運営費	余熱利用施設等管理運営経費	42,840		

内 訳		事業等実施の成果概要	
源	一般財源		
その他の			
	23,748	データセンターの維持管理	
1,141	1,352,594	システム機器保守業務委託	16 件
		制度改正等対応業務委託	33 件
	49,397	機械機器購入	
			10 件
415,102	456,350	ごみ搬入量	39,086.06 t
		可燃ごみ	33,800.74 t
		不燃・粗大ごみ	5,285.32 t
		周辺環境モニタリング（大気環境）	
	48,356	ごみ埋立量	6,213.52 t
		焼却灰等	5,763.33 t
		処理不適物等	450.19 t
		覆土量	248.00 t
		残余容量	942,599 m ³
86,106		資源ごみ処理量	1,377.80 t
		缶類	314.86 t
		びん類	640.38 t
		ペットボトル	422.56 t
		（ペットボトル処理の内訳）	
		指定法人ルート	206.44 t
		独自ルート	216.12 t
		危険ごみ処理量	99.30 t
		使用済み乾電池処理量	39.02 t
		環境学習施設利用者数	2,500 人
		和こものつくり等	1,714 人
		施設見学	786 人
	248,564		
	9,334		
76	42,764	げんき館ペトトル利用者	26,690 人
		温水プール（自主事業受講者含む）	15,394 人
		体育館（自主事業受講者含む）	10,973 人
		多目的室・研修室・健康情報室	323 人